

南京都病院だより

No.69 2023.01

南京都病院

<https://minamikyoto.hosp.go.jp/>
編集：南京都病院広報委員会



新年のご挨拶



院長 佐藤 敦夫



皆様に新春の喜びを申し上げます。

2022年もまた新型コロナ対策で明け暮れた1年となりました。ワクチン接種により、一旦患者数は劇的に減少しましたが、ウイルス変異が次々と生じ、変異株がまた流行し、変異株に対するワクチンを繰り返し接種しなくてはならないという状況が続いております。

そうは言っても、ワクチン接種の普及、抗ウイルス薬の登場により、新型コロナウイルス感染による死亡者数は大きく減少しました。そういった状況下でも、中国の様にゼロコロナ政策を継続する国もありますが、世界的には、徐々に行動制限を緩め、普段の生活を取り戻しながら、新型コロナ感染と向き合ってゆこうとする国が大勢を占めています。

新型コロナウイルス感染症の流行で、「人が集まることは悪いことだ」とする時期が続きましたが、ヒトは本来集団で生活する動物です。人と人が結びつき、社会を形成し、共同作業することで、他の動物にはない飛躍的な進歩を遂げてきました。感染を防止するために人と人の直接的な接触を減らしながらも、人と人のつながりをどう維持してゆくのかということは、感染対策下の生活での重要なテーマでした。病院を例にとると、感染防止のため入院患者さんへの面会を制限せざるを得なかったのですが、ビデオ面会という新たな面会方法ができました。実社会でもリモート勤務という新たな働き方が普及いたしました。今後は新たな方法を利用しながらも、人と人の直接的な繋がりでしか生まれない親密感や一体感を求め、制限なく人と人が集まれる社会に戻ってゆく必要があると考えます。

そうは言っても、集団感染が多発し、一度に沢山の患者さんが増えると、医療システムは

パンクし、検査すら受けられなくなってしまいます。コロナかどうかを検査できたとしても、他の病気かどうかの検査まではしてもらえず、病気をこじらせてしまうことも生じます。流行を繰り返し経験することで、様々な工夫を重ね、かなりの数の患者さんに対して対応できるように医療システムも改良されて来ましたが、それでも限りある資源であることに変わりはありません。

普段の生活を取り戻してゆこうとする方針が決まっても、そこに至るには必ず何度か揺り戻しが起こるでしょう。まだ暫くは、この不安定な状況に付き合っていく必要がありそうです。先行きの見通せない、複雑で不安定な状態が続くと、人は解決策を声高に叫ぶスーパーヒーローを求めてしまいがちです。複雑な状況の中では、自ら考え行動するより、自信たっぷりに単純な主張を繰り返す人を信じてしまう方が楽なのかも知れません。「皆が支持するあの人が言っているならきっと正しに違いない。」皆がそう思うってしまう事が、時に社会を大きな過ちに向かわせてしまうことを歴史が証明しています。

様々な情報が入り乱れる中、自分で考えるにはどうしたら良いのか、私がお勧めするのは出口治明さんの「たて、よこ、算数」という方法です。「たて」は歴史に学ぶ事、「よこ」は世界の情勢を知ること、「算数」はデータの根拠を計算し自分で確認してみる事です。どうぞ皆さんもやってみてください。不安定で複雑な状況であっても、正しい情報を集め、自分で考え、自分が正しいと思う行動を選択することを諦めずに続けましょう。続けることが積み重なり、困難な事態をいずれは打開してゆくと信じております。

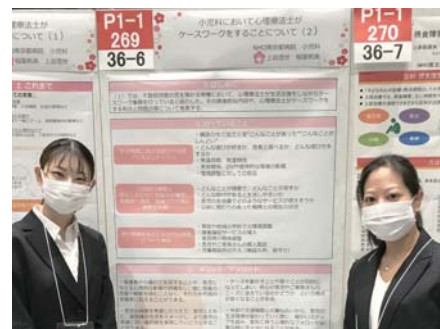
医学会
参加

国立病院総合医学会参加について

国立病院機構では年に1度、全国の機構職員が一同に会する学会を開催しており、今年は3年ぶりの現地開催となりました。日頃の取り組みについて発表や意見交換を行い、研鑽を積むことでより良い医療の提供を目指します。

心理療法士 稲葉 帆南

今回の国立病院総合医学会では、「小児科において心理療法士がケースをすることについて」という演題で、前半ではこれまでの経緯や現在の業務内容について、後半ではそれを通して見えてきたメリット・デメリットについてまとめ、今後より良い支援を行うために必要となるスキルや視点などについて検討しました。発表の場では、他の病院の心理療法士さんから様々なご意見やご質問をいただき、当院で行う支援の在り方について新たに考えるきっかけとなりました。また、他の病院の心理療法士さんの発表を聞か中で、それぞれの病院ごとの心理療法士の役割の違いを改めて学ぶことができました。その中で当院でも参考にさせていただきたい取り組みや患者さんとの関わり方などが多くあり、貴重な時間を過ごすことができました。今回の学会を通して学んだことを、今後活かしていければと思います。



薬剤部長 桶本 幸

3年ぶりの現地のみの開催となった今回は会場全体が活気にあふれていました。発表者と会場からのやり取りも熱がこもっていて参加者全員が明日からの活力をもらえる総合医学会でした。薬剤部門における発表で私が特に惹かれたのが「タスクシフト」に関するシンポジウムで業務改善の一考になりました。また吸入薬指導に関する発表では、我々が悩んでいる課題を実行されており、今後の方向性に確信が得られました。臨床研究に関する発表においても発表者と直接意見交換でき有意義でした。どの部門でも発表テーマが多岐にわたり、日々の気づきが大事であることを再認識するとともに観察力・洞察力を上げて来年度の総合医学会で発表できるようすぐにスタートしなくてはと思いました。

西病棟2階看護師 長谷部 瑳枝

今年度の国立病院総合医学会は、10月7日（金）～8日（土）に熊本で開催され約1700題の演題がありました。自病棟で取り組んだ重症心身障がい児（者）の骨折予防に向けた研究の発表を無事に終えることができました。セッション内でのベストポスター賞に選ばれ、副賞で「くまもん」の水筒を頂き、記念になる学会参加となりました。

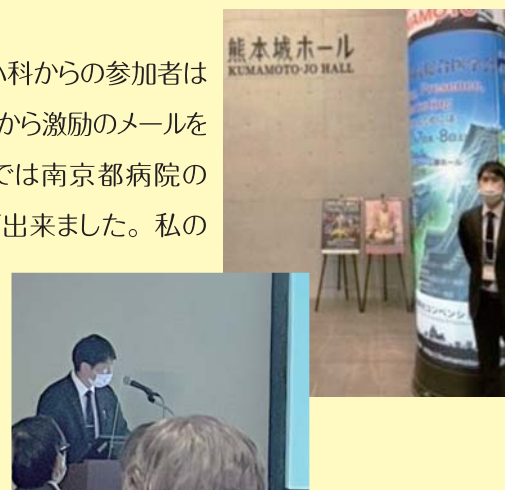
学会終了後、地震から5年で完全復旧を遂げた「日本3名城」の1つである熊本城の天守閣を観光しました。堂々たる姿で武者返しの異名を持つ石垣も印象的でした。

学会では、国立病院機構のセーフティネットに掲げている重症心身障がい児（者）の分野に対する各施設での取り組みが発表されており、多くの学びがありました。今後、自部署での看護実践に活かしていきたいと思っております。



理学療法士 渡邊 俊介

第 76 回国立病院総合医学会にて聴講と発表をさせていただきました。リハ科からの参加者は私 1 人だけであったため、少々心細さを感じていましたが、出発前に同僚の皆から激励のメールをもらい、意気込んで現地へと赴きました。いざ会場へ到着すると、そこでは南京都病院の職員や前職場の同僚などに会うことができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。私の発表の聴講にも数名来てくれたため、それほど緊張もすることもなく落ち着いて発表することが出来ました。3 年ぶりの現地開催であったため、久しぶりに会場の雰囲気を感じながら、出会いを楽しみ、学びを深めるといった経験が出来ました。また来年も参加出来たら良いと感じました。



主任保育士 小松 晴美

療育指導室ではコロナ禍で療育活動も変化が必要となり ICT を活用して様々な工夫を凝らして利用者の豊かな生活支援の取り組みを発表させていただきました。

人との交流がこれまでと異なり、制限が続く中で ICT を取り入れることにより、感染対策も行いながら離れた場所の人や季節・環境を感じていただき、人とのつながり・安心感や刺激を味わっていただきました。また、これまで実施していた遠足の代わりに行った院内ピクニックや星空観測（星つむぎの里）などにも ICT を活用することで、よりリアルな雰囲気を演出し体験していただき、その時の利用者さんのご様子・今後の課題について発表させていただきました。

久しぶりの対面での国立病院総合医学会に参加させていただき、やはり WEB 聴講では味わえない生の声での皆様の発表を聞かせて頂き、それぞれの病院での取り組みの熱意を肌で感じる事が出来ました。

栄養士 植田 早紀

第 76 回国立病院総合医学会にて発表させていただきました。入職前より COVID-19 が流行していたため、集合型で発表することが初めてでしたので、学会の規模や近距離で聴講されていることにとっても驚き、緊張しました。ですが、集合型で開催された事で、多職種の方の発表を聴講することが出来たり、web を通してでしか、交流がなかった他施設の栄養士の方とお話する事が出来て、とても貴重な経験をさせていただいたと感じています。多職種の方との繋がりを築けることは、国立病院機構ならではの魅力だなと改めて感じました。今後もこのような機会に積極的に参加させていただき、今後の業務に活かしていきたいと思っています。

臨床検査技師長 橋本 修治

学会は久しぶりの完全対面式にも関わらず、マスク着用と手指消毒以外のアクリル板など対策がなくランチョンセミナーもコロナ禍を忘れてしまうくらい盛況でした。口演会場は、やや狭い印象で密になる感じで、ポスター会場も参加者が多く環境的にはよろしくはないと思いつつも、短時間ずつの視聴をした次第です。専門学会ではないためか毎年思うのは参加者が聴講のみで、質疑応答は座長からとなり活発な討議は、ほど遠い感じを受けました。携わっているセッションでは、今後の検査に勉強になる内容も収集できて良かったです。この学会は自身や施設にとって足りないことを知る機会を得ることと、職種を問わず NHO 職員同士の親睦や情報交換を深める場としても継続的な開催は必要だと思いました。検査科からは今回2つの口演でしたが、当院の特色を併せたアピールができた内容でプレゼンを終えました。阿部技師も学会として初めての参加でしたが、しっかりしたプレゼンをしてくれて、とても良かったです。そして留守中に対応してくれた検査科スタッフに対して、この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

地域連携

地域連携に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

内科・心臓リハビリテーション

【本院】べっぷ内科クリニック

<https://beppu-clinic.com/clinic-main.html>



院長
別府 浩毅 先生

- 京都府宇治市宇治半白12-3
- TEL.0774-66-1024
- 診療内容：内科・糖尿病内科・循環器内科・腎臓内科

内科	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00 (受付開始8:45)	●	●	●	●	●	●	/
13:00~19:00 (受付終了18:30)	●	●	●	/	●	/	/

心臓リハビリテーション	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~10:00	●	●	●	●	●	●	/
10:30~11:30	●	●	●	●	●	●	/
12:00~13:00	●	●	●	●	●	●	/
13:30~14:30	●	●	●	/	●	/	/
15:00~16:00	/	●	●	/	●	/	/



包括的な医療サービスで地域社会に貢献

べっぷ内科クリニック本院は、2017年9月、糖尿病内科・循環器内科の診療を主とするクリニックとして開院いたしました。そして、2022年10月には地域社会へのより一層の貢献を目指し、宇治市役所前に分院を開院しております。

心臓疾患の多くが糖尿病を主とする生活習慣病が大きく関係しており、食事・運動といった基本的な管理が重要です。そのため、本院では心臓リハビリテーションを実施しており、心臓に病気をお持ちの患者さんに対して適切な運動療法の取り組み方などをアドバイスし、問題解決のサポートをしております。

また、昨年開所したべっぷ訪問看護リハビリステーションでも、利用者さんに心電図モニターを装着していただき、在宅での「心臓リハビリ」を提供しています。本院に在籍している心臓リハビリテーション指導士や管理栄養士、看護師などの専門職と連携を取りながら、利用者さんやご家族の方が慣れ親しんだご自宅で、安心・安全に過ごしていただけるよう、全力でサポートしております。



内科

【分院】べっぷ内科クリニック

<https://beppu-clinic.com/clinic-branch.html>

院長
谷川 幸洋 先生

- 京都府宇治市宇治下居20-1 101
- TEL.0774-25-1003
- 診療内容：内科・糖尿病内科・循環器内科・腎臓内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~13:00 (受付開始8:45)	●	●	●	●	●	/	/
13:00~17:30 (13:00~15:30は専門外来完全予約制)	●	●	●	●	●	/	/
17:30~19:00 (受付終了18:30)	/	/	/	●	/	/	/



訪問看護

医療法人糖心会
べっぷ訪問看護
リハビリステーション

<https://beppu-nursest.info/>

- 京都府宇治市宇治半白17番地1宇治プラザ202
- TEL.0774-21-2119
- 営業時間：8：30～17：30

※緊急訪問看護加算契約利用者に関しては、24時間体制にて電話でのご相談及び緊急訪問をします。

内科	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30~17:30	●	●	●	●	●	/	/



地域
連携

地域連携に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

訪問看護

訪問看護ステーション
ミストラル城陽<http://mistralservice.co.jp/>管理者
深井 恵子

- 京都府城陽市寺田乾出北46-2 TタウンB棟105
- TEL.0774-56-8877 ● FAX.0774-56-8866
- 営業時間：9時～17時
※24時間対応 平日空きあり
担当：深井までお気軽にご相談下さい。

- 職種・資格：看護師

- 訪問エリア

城陽市・宇治市・京田辺市・
久御山町ミストラルサービスのInstagramの
投稿を始めました！ぜひご覧ください。

ここに「あたたかな風」を送りたい・・・

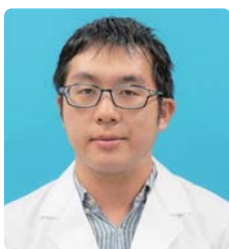
城陽市 寺田にあります訪問看護ステーション
ミストラル城陽です。

「ミストラル」とは南フランスに吹く風の事です。
地域に新しい風を吹き込み温かいサービスを提供したい
という想いで訪問看護に取り組んでいます。誰もが住み
慣れた家で生活したいと願い、病気や障害があっても
安心して自分らしく暮らしたい。ひとりひとりのご利
用者様やご家族さまとのかかわりを大切に、そして
地域医療に携わるすべての方々と連携をとりながら、
重度疾患・障害のかたであってもその方の希望を満た
せる訪問看護とは何かを考えます。

訪問した際は笑顔を中心掛け、皆様の笑顔も増える
よう、「最良のサービス」の提供に尽力します。当事
業所は看護師5名事務員1名で運営していますが、ミ
ストラル山城もR4.6月に
オープンし事業所の拡大
を図っております。訪問エ
リアも拡大し、誰もが安心
して暮らせる、やさしい社
会づくりに貢献します。



新採用医師紹介



小児科 大植 啓史

初めまして、2022年10月よりお世話になっております小児科の大植啓史です。

今年で医師6年目、小児科4年目になります。専攻は小児の消化器・肝臓領域です。
9月までは京都大学附属病院の小児科で新設されたPICUの医師として修練する傍ら
内視鏡のトレーニングなどをおこなっていました。急性期の病院から慢性期がメインの
病院へ異動となり色々とお戸惑うところもありますが、患者の皆様やご家族に寄り添った
診療ができるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



呼吸器内科 専攻医 坂本 裕人

初めまして、医師4年目の坂本裕人と申します。熊本県出身で、島根大学を卒業後、
天理よろづ相談所病院で初期研修を行い、診療科選択はかなり悩みましたが、アレルギー・
悪性腫瘍・感染症・びまん性肺疾患・呼吸不全など分野が多彩である呼吸器内科を
専攻しました。現在天理よろづ相談所病院にて呼吸器内科専攻医として後期研修中
であります。坪井先生・佐藤先生のご高配もあり2022年10月から6ヶ月間南京都
病院で研修させていただくことになりました。慢性呼吸不全の呼吸器管理・結核診療など
まだ診療経験が浅い分野ではありますが、指導医の方々から知識・経験を十分に回収できたら
と思っております。

まだまだ若輩者で至らぬ面も多いと存じますがご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

心理”シ“の紹介

心理療法士 うえさこ すみよ 上迫 澄世

南京都病院のホームページ、小児科の「3. 心身症、発達障害などを背景に生活しづらさを抱える子どもたちを対象とした診療」のページから、心理療法士の紹介ページを見ることができるようになりました（「臨床心理士のページへ」というリンクがあります）。お子さん、ご家族さん、お子さんに関わっておられるたくさんの方々へ、どんな風にお役に立てるかな?と思いながらお会いしている毎日です。

南京都病院の中でお仕事をする時には「心理療法士」という職名ですが、これは資格の名前ではありません。現在南京都病院に勤務している心理療法士は「公認心理師(国家資格)」と「臨床心理士(指定大学院を修了後、試験を受けて取ります)」という資格を持ってお仕事をしています。小児科の所属なので、「子どもが専門?大人は専門外?」と聞かれることもあります。そんなことはないです。“心”との旅は生まれた時から(あるいは生まれる前から)死ぬまで続きます。毎日、どんな時も、楽しかったり嬉しかったり、“心”が生き生きと元気だったら良いのですが、そうでない時もあります。そんな時に、「今はあんまり元気じゃないけど、そんな自分でもまあいいか」と思えたり、「こうしてみたら元気になれるかも」とアイデアを出してみたり、「心が生き生きするってどういうことなのかな」と考えたり、そういうことに一人で取り組むことも大事ですが、誰かと一緒に取り組むことも同じくらい大切なことだと考えています。そして、そういうことを考えるときに、時々、“心”についての専門的な知識があると役に立つことがあります。“心”について考えるとき、心理士(師)もパートナーとして候補に入れていただけたら嬉しいな、と思っています。

最後に、今は病院から出て何かをする、というようなことはなかなかできていませんが、「こんなこと一緒にできる?」というようなことがあれば、ぜひお声かけいただけたら嬉しいです。

独立行政法人国立病院機構 **南京都病院**

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
 TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
 時間外緊急時 TEL.0774-52-0642
<http://www.hosp.go.jp/~skyyoto/>
 当院は在宅療養安心病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

〈地域医療連携室〉
 TEL.0774-52-0191(直通) TEL.0774-52-0065 (代表)
 FAX.0774-58-0270
 月～金 8:30～19:00 (土日祝休み)
 E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp

※予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますのでご了承ください。

診療科のご案内

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| ● 内科 | ● 脳神経内科 | ● 呼吸器内科 |
| ● 消化器内科 | ● 循環器内科 | ● 小児科 |
| ● 外科 | ● 整形外科 | ● 呼吸器外科 |
| ● 皮膚科(入院のみ) | ● リハビリテーション科 | ● 放射線科 |
| ● 心臓内科(入院のみ) | ● 歯科(入院のみ) | |

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 - JR学研都市線 京田辺から
 - JR奈良線 山城青谷から 徒歩 20分
- * ... 各駅より 送迎車あり



今後の紙面の参考にアンケートにご協力ください。左のQRコードからアクセスし南京都病院だよりを読んだご意見ご感想をお寄せください。